



第7回

京都大学 生存圏研究所

# 公開講演会

平成22年10月24日(日)

京都大学宇治キャンパス公開行事

[場所] 宇治おうばくプラザ きはだホール

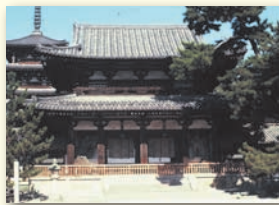
来聴歓迎  
入場無料

## プログラム

●13:30-13:40 所長挨拶 津田 敏 隆

●13:40-14:20 木材の寿命を考える 川井 秀 一

木材は古来より身近な暮らしにあって、加工しやすく、丈夫な材料として住宅や道具に多用されている。とくに、わが国は1400年の時を越えて現存する法隆寺をはじめ“木の文化”と端的に表現される多くの歴史的木造建造物を数多く保有している。本講演では、材料としての木材の寿命や経年変化について、古材と熟処理木材を比較検討しながら考える。



●14:20-15:00 熱帯の風・雨・雲を測る  
～赤道大気レーダーの挑戦～ 山本 真 之

熱帯域における強い積乱雲の活動は、熱帯低気圧(台風)の到来やエルニーニョ現象に伴う気温・降水量の変化など、様々な形で日本に住む我々の生活に影響します。直径110mの大型アンテナを備えた赤道大気レーダーが解き明かす、熱帯の風・雨・雲の“すがた”を紹介します。



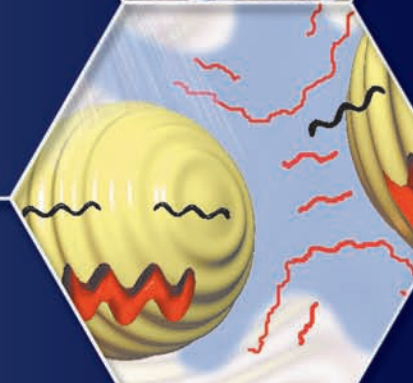
●15:20-16:00 宇宙で電波をはかるなんて?☆ 小嶋 浩 嗣

テレビに携帯電話……。地球上では、もはや電波は当たり前のように利用されていますね。実は、宇宙空間や惑星の周辺でも電波は盛んに放射されています。むしろ宇宙空間の方が地上よりも電波を発生させるのは容易かもしれませんよ。講演では、宇宙空間で人工衛星を使った自然電波の観測についてお話しします。



●16:00-16:40 バイオマスが拓く持続的社會 渡辺 隆 司

資源枯渇や地球温暖化問題が強く認識されるにつれ、石油、石炭などの化石資源に大きく依存した社会から、再生可能資源を有効に利用する社会への変革が求められています。ここでは、再生可能な唯一の有機資源であるバイオマス(木質バイオマス)を化学資源として変換する意義と、微生物機能やマイクロ波を利用した変換の一端を紹介します。



問い合わせ



京大生存圏研究所

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 Tel.0774-38-3346



京都からJR奈良線「黄檗駅」下車約7分  
大阪・三条から京阪本線中書島駅乗換  
京阪宇治線「黄檗駅」下車約10分